

調書番号
93

事業名	肉用牛改良推進事業費	財務コード (事業)	058303
-----	------------	---------------	--------

細事業名	高品質和牛倍増プラン推進事業費
------	-----------------

担当部課室	農政 部 畜産 課 生産 担当 (内線)	5263
-------	----------------------	------

事業の概要

実施期間	始期 H11 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県 (一部山梨県家畜改良協会に委託)		
事業の目的	誰(何)を対象に 高品質和牛(甲州牛)	その対象をどのような状態にして 生産頭数が増加している	結果、何に結びつけるのか 高品質和牛(甲州牛)の拡大普及 肉用牛農家の経営安定
	育種価を基に、県内繁殖牛の個々の能力を把握し、高能力な牛の計画的利用を促進することで、県内繁殖雄牛の改良・増殖を図る。 1 推進協議会の開催 ・農家毎の「雌牛」の育種価と、家畜改良事業団等が所有する「雄牛」の育種価を互いに公表することを通じ、高能力牛の選定や交配について指導を行う。 2 データ収集、分析及び整理 (家畜改良協会へ委託) ・出荷される肥育牛の枝肉データを収集 ・全国和牛登録協会が解析した育種価データを整理し、優良牛繁殖のために活用 ・県内繁殖雌牛の繁殖データ整理 3 繁殖農家巡回指導 ・家畜保健衛生所職員が農業共済獣医師と連携し、牛に繁殖障害(妊娠しない等)がないか農家を巡回して指導を実施 育種価 ・親から子に遺伝する能力で、枝肉重量やロース芯面積など6項目の指標により決定されるA~Cのランク ・子牛の品質は遺伝能力・飼料・肥育環境等の影響を受ける。中でも影響の大きい遺伝能力においては、育種価の高い(Aランクの多い)雌と雄を交配させることで、能力の高い子牛が生産され、結果肥育後に甲州牛に認定される可能性が高くなる。		
事業の内容 主に 24年度			
根拠法令等	家畜改良増殖法		

事業の目標、実施状況等 (事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	23年度	24年度		25年度	26年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 県内肥育出荷牛データ収集数	273 件	273 件	273 件	273 件	273 件	活動指標 目標設定の考え方 県内繁殖雌牛の育種価を算出するために必要な肥育牛データの収集 データの出典等 委託事業実績報告
	活動指標達成率 (実績値/目標値)	100.0 %				
成果指標 甲州牛生産頭数	379 頭	379 頭	435 頭	435 頭	435 頭	成果指標 目標設定の考え方 過去実績をもとに設定 データの出典等 食肉流通センター市場結果
	成果指標達成率 (実績値/目標値)	114.8 %				
決算額、予算額 (千円)	1,342	1,289		1,257	1,072	成果指標によらない成果
うち一財額	705	652		512	294	
所要時間 (直接分)	136 時間	136 時間		136 時間	125 時間	
所要時間 (間接分)	0 時間	0 時間		0 時間	0 時間	
所要時間計	136 時間	136 時間		136 時間	125 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,050円 × 所要時間)	279	279		279	256	

これまでの事業の見直し・改善状況

--

活動量と成果の判断 (平成24年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)		
数値判定 H24年度 活動指標 達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定 H24年度 成果指標 達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記入すること 得られた繁殖雌牛の育種値を基に農家指導を行い、農家において肉用牛の効率的な改良増殖が行われてきた結果、(株)山梨食肉流通センターへ出荷された黒毛和種牛の甲州牛認定率は増加してきており、概ね意図した成果を上げている。
b	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

見直しの必要性 (平成26年度に向けた改善等の考え方)

一次評価 (担当部評価結果)		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
有	得られた育種値を農家へ公表するまでに時間を要していたため、作業フォーマットを作成するなど整理作業の効率化を図り、成果を速やかに農家へ公表して、適正な肥育を行えるよう指導を実施する。	k

・「以外の判断項目」の欄
 必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) 官or民(f.民間等実施) 官の役割分担
 (g.市町村等へ移管) 効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価 (担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

見直しの方向 (平成26年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
実施方法等の変更	各種データ入力作業用フォーマットを作成することで、データ整理作業の効率化及び時間短縮を図る。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。